

元気で躍進 地域経済

三重化学、市支援を報告

製造業者
セミナー 冷却剤開発、土性^{きん}使用も

県と松阪市周辺の自治体、商工会議所、商工会、金融機関、三重大学でつくる松阪地域産業活性化協議会(会長＝竹上真人松阪市長、18団体・機関)が2日午後3時から、同市高町の華王殿で「製造業者交流セミナー」を開いた。内容は、同市が本年度初めて実施した中小企業ハンズオン支援事業で支援を受けた三重化学工業㈱(同市大口町)の山川大輔社長(40)による報告と、同事業の仕掛け人の山口義行・立教大学名誉教授(66)による講演。第2部として企業交流会も行われた。

山口教授は経済学者 きっかけとなった。で、中小企業サポートネットワーク(略称「スモールサン」、会員約1600人)を主宰し、中小企業経営者との勉強会「スモールサン」を全国で開催。今回の事業は、竹上市長が県議時代に山口教授の研究室を熱心に訪れ、松阪での講演を依頼してからの付き合いが

三重化学は昨年6月の審査で選ばれて市から年間最大で300万円の支援を受けることになり、首周りの冷却剤「くるっ」と「クール」などを独自開発。市の仲介などで高町出身の女子レスリング68級・土性沙羅選手(東新住建)や豊原町のプロゴルファー・鈴木麻綾さんに使用してもらい、テレビなどで紹介されたりもした。



山口教授(右)の講演を聴く山川社長(左)ら。高町の華王殿で

この日は、竹上市長が本年度の同市の産業支援の取り組みを振り返ってあいさつ。山川社長が同事業の成果を報告。演題を「change to chance」を「チェンジをチャンスに」と掲げ、「小さな変化が大きな変化となつて、チャンスにつなげていくのではないか」という意味を込めてやっている。本日は社内向けて発信していくためのテ

「マ」と説明した。同社はもとも防寒手袋や保冷剤のメーカーで、「ニッチ(市場の隙間)で独自性のある物を造っているが、これから大きく伸びる分野ではなく、一年を通して売れる物ではないという悩みがあった」と応募の動機を語り、「人的ネットワークのサポートを得て、短

期間で成果を生み出せたい」「将来的には『医療機器の三重化学』と呼ばれるようにになりたい」と意欲を見せた。山口教授は「激動の2018年を読み解く」と題して、「隣接異業種」に参入することを推奨。その際に「ニースを適格につかんでいるかどうか」が重要だと話した。

有効求人倍率は1.78倍

松阪職安 管内 失業者減、人手不足は慢性化

松阪公共職業安定所(ハローワーク松阪)は2日までに、昨年12月の管内(松阪市と多気郡全域)の一般職業紹介状況をまとめた。それによると有効求人倍率は1.78倍で、前月比0.01倍増(前年同月比0.47倍増)だった。新規求人倍率は2.51倍で、前月比0.15倍増、前年同月比0.33倍増。有効求人倍率は21カ月連続で増加。同職安では、「(前年同月比)は新規、有効とも増加傾向にはあるが、少し緩やかになった」とみる。

「浴場業」「教育・学習支援業」「サービス業」「公務」。そのうち「生活サービス・理美容」では、美容室関係の更新求人(求人)が満たされないと3カ月ごとに新規として更新されること)と一部増員があり、冠婚葬祭関連の更新求人もあった。「教育学習支援」でも、自動車学校、看護学校、学習塾などからの更新求人があり、慢性的な人手不足をうかがわせる。「サービス業」では、人材派遣業の製造パート求人や、警備員のパート求人が増加。前月比27人増、前年同月比19人増の61人の求人があった。松阪職安では「失業者の減少により、ハローワークへの登録者は前年度比較で減少傾向にあるものの、窓口への相談は増加しており、転職希望者も多く見受けられる」と話す。同月の県全体の有効求人倍率は1.86倍、新規求人倍率は3.05倍。9職安管内で松阪の有効求人倍率は5位だった。